

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(省令で定める基準単位数を満たす単位分科目のみ抜粋)

学校名：学校法人三幸学園 札幌ビューティーアート専門学校

学科名：美容科

授業科目名	単位数
美容実習Ⅰ-A	3
美容実習Ⅰ-B	3
合計	6

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	保健Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	保健Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	1	30
使用教材	保健Ⅰ		出版社	社) 日本理容美容教育センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	適切な美容を行うために人体の保健と皮膚科学を解剖学的ならびに生理学的に理解し、「美容実習」および「美容の物理化学」と関連させながら知識の習得する。				
到達目標	人体の基礎知識の習得を図ることによって安全で衛生的な美容の施術を実践できる能力を育て、施術依頼者からの質問にも十分に説明できる。				
評価基準	テスト：50％ 小テスト：30％ 授業態度：20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格				
関連科目	保健Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	石山 広美		実務経験	○	
実務内容	看護師として、循環器内科、脳神経外科、救急外来等勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	第1章/頭部、顔部、頸部の体表解剖学	1 項 人体各部の名称
2	第1章/頭部、顔部、頸部の体表解剖学	2 項 頭部、顔部、頸部の体表解剖学
3	第2章/骨格器系	1 項 骨の種類と構造 2 項 骨の連結・骨格器とそのはたらき
4	第2章/骨格器系	3 項 骨格器とそのはたらき
5	第3章/筋系	1 項 筋の種類とその特徴 2 項 主な骨格筋とそのはたらき

6	第 3 章/筋系	3 項 表情筋と表情運動 4 項 理容美容の作業と筋疲労
7	まとめ	まとめを行う
8	解説	振り返り・解説
9	第 4 章/神経系	1 項 神経系の成り立ち
10	第 4 章/神経系	2 項 中枢神経とのはたらき 3 項 末梢神経とのはたらき
11	第 5 章/感覚器系	1 項 視覚 / 2 項 聴覚 / 3 項 平衡感覚
12	第 5 章/感覚器系	4 項 味覚 / 5 項 嗅覚 / 6 項 皮膚感覚
13	まとめ	まとめを行う
14	解説	振り返り・解説
15	総まとめ	総まとめを行う
16	第 6 章/血液・循環器系	1 項 血液のあらまし
17	第 6 章/血液・循環器系	2 項 血液循環の仕組み
18	第 6 章/血液・循環器系	3 項 血液の循環経路
19	第 6 章/血液・循環器系	4 項 心臓と血管のはたらき 5 項 リンパ管系の仕組みとはたらき
20	第 7 章/呼吸器系	1 項 呼吸器系のあらまし 2 項 気道
21	第 7 章/呼吸器系	3 項 肺の仕組みとガス交換 4 項 呼吸運動
22	まとめ	まとめを行う
23	解説	振り返り・解説
24	第 8 章/消化器系	1 項 消化器系のあらまし

25	第 8 章/消化器系	2 項 消化管の仕組み
26	第 8 章/消化器系	3 項 消化管のはたらき
27	第 8 章/消化器系	4 項 消化と物質代謝
28	まとめ	まとめを行う
29	解説	振り返り・解説
30	総まとめ	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	文化論Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	文化論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科	1	30
使用教材	文化論		出版社	社)日本理容美容教育センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容業界人として必要な理容業・美容業の歴史を学び、創造を広げるエッセンスとなる日本・西洋のファッション文化史の流れを習得する。		
到達目標	美容師国家試験(筆記)に向けて適切な記述ができる。		
評価基準	テスト:50% 課題提出:30% 授業態度:20%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	美容師国家資格		
関連科目	美容技術理論Ⅰ・美容技術理論Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	春藤 聡子	実務経験	○
実務内容	ブライダルジュエリーの販売・デザインアドバイザー		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章 総論 第1節 総論	教科、授業進行の説明。美容師に求められるものについて。用具の説明。
2	第4章ファッション文化史西洋編 第1節～第3節 古代エジプト・ギリシャ・ローマ・ゲルマン	古代エジプト・ギリシャ・ローマ・ゲルマンの髪型、化粧、服装について
3	第4章ファッション文化史西洋編 第4節中世ヨーロッパ	中世ヨーロッパ、16世紀の髪型・化粧・服装について
4	第4章ファッション文化史西洋編 第5節近世Ⅰ(16世紀) 第6節近世Ⅱ(17世紀)	16世紀、17世紀の髪型・化粧・服装について
5	第4章ファッション文化史西洋編 第7節近世Ⅲ(18世紀)	18世紀の髪型・化粧・服装について
6	第4章ファッション文化史西洋編 第8節近代Ⅰ(18世紀末～19世紀初め) 第9節近代Ⅱ(19世紀)	18世紀、19世紀の髪型・化粧・服装について

7	第4章ファッション文化史西洋編 第10節現代Ⅰ(1910～1920年代) 第11節現代Ⅱ(1930～1940年代前半)	1910～1940の髪型・化粧・服装について
8	テスト アクティブラーニング	テスト、アクティブラーニング
9	第4章ファッション文化史西洋編 第12節現代Ⅲ(1940後半～1950年代)	1940～1950の髪型・化粧・服装について
10	第4章ファッション文化史西洋編 第13節現代Ⅳ(1960年代)	1960の髪型・化粧・服装について
11	第4章ファッション文化史西洋編 第14節現代Ⅴ(1970年代)	1970の髪型・化粧・服装について
12	第5章 礼装の種類 第1節 和装の礼装 第2節 洋装の礼装	礼装について
13	第4章ファッション文化史西洋編 第15節現代Ⅵ(1980年代) 第16節現代Ⅶ(1990～2010年代)	1980～2010の髪型・化粧・服装について
14	総まとめ	総まとめを行う
15	テストと解説	テストと解説を行う
16	第2章 日本の美容業の歴史 第1節～第2節	第1節理容業・美容業の発生第2節江戸時代の理容業・美容業
17	第2章 日本の美容業の歴史 第3節～第4節	第3節近代の理容業・美容業第4節現代の理容業・美容業
18	第3章ファッション文化史日本編 第1節 縄文・弥生・古墳	縄文・弥生・古墳時代の髪型・化粧・服装について
19	第3章ファッション文化史日本編 第2節 古代(飛鳥・奈良・平安時代)	古代の髪型・化粧・服装について
20	テスト 第3章ファッション文化史日本編 第3節 第4節	テストと解説、中世・近世Ⅰの髪型・化粧・服装について
21	第3章ファッション文化史日本編 第5節 近世Ⅱ(江戸時代)	江戸時代の女性の髪型、化粧について
22	第3章ファッション文化史日本編 第5節 近世Ⅱ(江戸時代)	江戸時代の男性の髪型、服装について
23	第3章ファッション文化史日本編 第6節 近代(明治・大正・昭和20年まで)	明治の髪型・服装・化粧について
24	第3章ファッション文化史日本編 第6節 近代(明治・大正・昭和20年まで)	大正、昭和(戦前)の髪型・服装・化粧について
25	テスト 第3章ファッション文化史日本編 第6節 近代(明治・大正・昭和20年まで)	テストと解説、明治、大正、昭和(戦前)の復習
26	第3章ファッション文化史日本編 第7節 現代Ⅰ(1945～1950年代)	昭和(戦後)の髪型・服装・化粧について
27	第3章ファッション文化史日本編 第8節 現代Ⅱ(1960～1970年代)	1960年代の髪型・化粧・服装について
28	第3章ファッション文化史日本編 第8節 現代Ⅱ(1960～1970年代)	1970年代の髪型・化粧・服装について
29	テスト解説 第3章ファッション文化史日本編 第9節 第10節	1980～2000年代の髪型・化粧・服装について

30	テスト、総まとめ	テスト、総まとめを行う
----	----------	-------------

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	美容技術理論Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	美容技術理論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	3	90
使用教材	美容技術理論Ⅰ			出版社	社) 日本理容美容教育センター
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容業界で活躍していくために、美容全般の技術と理論について習得する。				
到達目標	美容師国家試験（筆記）に向けて適切な記述ができる。				
評価基準	テスト：50％ 小テスト：30％ 授業態度：20％				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格				
関連科目	技術理論Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	鶴本 純子			実務経験	○
実務内容	美容室で美容師として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	インTRODクシヨン <序章 美容技術理論を学ぶにあたって>	※ 美容師免許を所得する上での必要性、取得までの流れを説明 ・美容理論について・美容技術者としての心構え・安定した姿勢、作業点と姿勢 ・作業点と姿勢 ・力の配分と姿勢 ・人体各部の名称 ・美容における頭部の区分
2	<第1章 美容用具> 1. 美容技術における用具 2. コーム 3. ブラシ 4. シザーズ	・美容の道具、器具、機械、取り扱い方 ・コームの種類と各部の名称、選定法、手入れ法・ブラシの種類、選定法と手入れ法 ・シザーズの種類、各部の名称、選定法と手入れ法

3	<第1章 美容用具> 5. レザー 6. ピン類、ヘアクリップ 7. ロッド 8. ローラー	・いろいろな太さのローラー ・ホットカーラー（ローラー） ・レザーの種類と各部の名称、刃線の形態と力のかかり方、選定法と手入れ法 ・ヘアピンのいろいろ・ロッドの種類
4	<第1章 美容用具> 9. ヘアアイロン 10. ヘアドライヤー 11. ヘアスチーマー 12. 遠赤外線機	・ヘアアイロンの種類、各部の名称、選定法と手入れ法 ・ヘアドライヤーの種類と構造 ・タービネートタイプドライヤーの構造 ・ヘアスチーマーの選定法・遠赤外線機役割
5	<第2章 シャンプーイング> 1. シャンプーイング総論 2. サイドシャンプー 3. バックシャンプー	・シャンプーイングの目的、施術の内容による目的の違い、メカニズム ・シャンプー剤の成分、種類・シャンプーイングの際の注意・シャンプー技術のプロセス ・ブラッシング・ファースト、セカンドシャンプー・バックシャンプーの手順、指の動き
6	<第2章 シャンプーイング> 4. リンス、コンディショナー・トリートメント	・リンス、コンディショナー、トリートメントの役割、違い、成分 ・リンスの目的、種類、技術・コンディショナーの目的 ・ヘアトリートメントの目的、種類技術の一例
7	<第2章 シャンプーイング> 5. スカルプトリートメント 6. ヘッドスパ	・スカルプトリートメントの目的、要素、種類・頭皮のトラブルのいろいろ ・育毛剤の成分とはたらき・ノーマルスカルプトリートメント技術の一例 ・スカルプマッサージ技術の目的と手順 ・ヘッドスパのプロセス、リラクセーションマッサージ
8	前期まとめ	まとめを実施し理解等の確認【範囲：序章～第2章】
9	<第5章 パーマネントウェーピング> 1. パーマネントウェーブの歴史と現在 2. パーマネントウェーブの理論 3. パーマ剤の分類	・パーマネントウェーブをはじめとする美容関係の歴史・毛髪構造について ・ウェーブが形成される仕組み・パーマ剤の分類、種類
10	<第5章 パーマネントウェーピング> 4. パーマ剤に関する注意事項 5. パーマネントウェーブ技術	・使用前、操作中に関する注意事項 ～ スタイリング
11	<第5章 パーマネントウェーピング> 6. ワインディングのバリエーション 7. 縮毛矯正(高温整髪用アイロン使用)	・ワインディングにおける応用～カウンセリング（ブレーン&仕上げ）

12	<第3章 ヘアデザイン> 1. 美容とデザイン	・錯覚現象を美容に生かそう・デザインの要素
13	<第3章 ヘアデザイン> 1. 美容とデザイン	・デザインの原理
14	前期期末まとめ	まとめを実施し理解等の確認【範囲：第5章・第3章】
15	総合授業	総まとめを行う
16	<第4章 ヘアカットイング> 1. ヘアカットイングとは 2. シザーズとレザーの扱い方 3. 美容刃物 4. ヘアカットイングの正しい姿勢	・シザーズ、レザーの持ち方等・刃物の材質、材料、正しい姿勢の基本
17	<第4章 ヘアカットイング> 5. ブロッキング 6. ヘアカットイングの基礎理論 7. ベーシックなカット技法	・頭部の基礎分割線・基準となる頭部のポイント、スライスの種類・パネルと頭皮の角度・毛先が集まる位置とカットラインの関係・パネルの幅や長さでカットラインの関係・パネルの角度とシルエットの関係・ラインの設定法 ・ワンレングスカット・グラデーションカット・レイヤーカット・セიმレングスカット
18	<第4章 ヘアカットイング> 8. シザーズによるカット技法 9. レザーによるカット技法	・シザーズによるカット技法、ストロークの分類 ・レザーによるカット技法のいろいろ、テーパーカットの分類
19	後期中間まとめ	まとめを実施し理解等の確認【範囲：第4章】
20	<第6章 ヘアセッティング> 1. ヘアカットイングとは 2. ヘアパーティング 3. ヘアシェーピング	・オリジナルセットの基本的な要 ～ ストランドシェープ、フィンガーウエーブ時の持ち方
21	<第6章 ヘアセッティング> 4. ヘアカーリング	・オリジナルセットの基本的な要 ～ ストランドシェープ、フィンガーウエーブ時の持ち方 ・カール各部の名称、分類 ～ クロッキノールカール技術の一例
22	<第6章 ヘアセッティング> 5. ヘアウエーピング 6. ローラーカーリング	・ヘアウエーブの名称、分類 ～ ローラーウエーブ ・ベースの幅と厚さ
23	<第6章 ヘアセッティング> 7. ブロードライ 8. アイロンセッティング	・ハンドドライヤーとブラシの基本操作 ・アイロンの持ち方
24	9. バックコーミング 10. アップスタイル 11. ウィッグとヘアピース	・バックコーミング・アップスタイル ・ウィッグ、ヘアピース手入れ法

25	<第7章 ヘアカラーリング> 1. ヘアカラーリング概要 2. ヘアカラーの種類 3. ヘアカラーのタイプ別特徴 4. 染毛のメカニズム	・ヘアカラーリングの歴史、種類 ～ タイプ別染毛メカニズム
26	<第7章 ヘアカラーリング> 4. 染毛のメカニズム 5. 色の基本 6. 毛髪のレベルとアンダートーン	・ヘアカラーの色選び～アンダートーン
27	<第7章 ヘアカラーリング> 7. パッチテスト 8. 染毛剤使用時の注意 9. ヘアカラーリングの道具 10. 酸化染毛剤の技術手順 11. 酸性染毛剤料の技術手順 12. ヘアブリーチ	・染毛剤と皮膚炎 ～ ・ヘアカラーリング専用の施術道具 ・パッチテスト ～ ・ヘアブリーチのブロッキング一例
28	後期期末まとめ	まとめを実施し理解等の確認【範囲：第4章・第7章】
29	まとめ・解説	まとめ・解説を行う
30	総合授業	総まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	衛生管理Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	衛生管理Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	1	30
使用教材	衛生管理		出版社	社) 日本理容美容教育センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	公衆衛生について学び、感染症と環境衛生、消毒の義務や目的など、サロンにおける衛生管理を学ぶ中で、衛生面についての理解する。				
到達目標	不特定多数の人の皮膚や毛髪に直接触れ、刃物や薬剤などを用いて業務をするため、個人としてだけでなく、業を通して公衆衛生・環境衛生を業務に関連付けて説明することができる。				
評価基準	テスト：50％ 小テスト：30％ 授業態度：20％				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	河合 静香		実務経験	○	
実務内容	看護師として消化器内科・血液内科等で勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	第1編 公衆衛生 1章公衆衛生の概要	美容師免許を所得する上での必要性、取得までの流れを説明 健康の定義、公衆衛生の歴史、保健所の役割
2	第1編 公衆衛生 2章保健	「母子保健」・「成人・高齢者保健」・「精神保健」
3	第1編 公衆衛生 2章保健	「母子保健」・「成人・高齢者保健」・「精神保健」
4	第1編 公衆衛生 2章保健	「母子保健」・「成人・高齢者保健」・「精神保健」
5	第2編 環境衛生 1章環境衛生の概要・空気環境	環境衛生の内容・目的・意義・活動 空気の成分と有毒ガス 温度・湿度・風と健康

6	第 2 編 環境衛生 1 章環境衛生の概要・空気環境	環境衛生の内容・目的・意義・活動 空気の成分と有毒ガス 温度・湿度・風と健康
7	第 2 編 環境衛生 1 章環境衛生の概要・空気環境	環境衛生の内容・目的・意義・活動 空気の成分と有毒ガス 温度・湿度・風と健康
8	第 2 編 環境衛生 1 章衣服住居の衛生・上下水道と廃棄物	衣服住居の衛生・上下水道と廃棄物
9	第 2 編 環境衛生 1 章衣服住居の衛生・上下水道と廃棄物	衣服住居の衛生・上下水道と廃棄物
10	第 2 編 環境衛生 1 章衣服住居の衛生・上下水道と廃棄物	衣服住居の衛生・上下水道と廃棄物
11	第 2 編 環境衛生 1 章衛生害虫とネズミ・環境保全	衛生害虫とネズミ・環境保全
12	第 2 編 環境衛生 1 章衛生害虫とネズミ・環境保全	衛生害虫とネズミ・環境保全
13	まとめ	まとめを実施する。
14	解説	振り返り・解説
15	総まとめ	総まとめを行う
16	第 3 編 感染症 1 章感染症の概要	美容師免許を所得する上での必要性、取得までの流れを説明 健康の定義、公衆衛生の歴史、保健所の役割
17	第 3 編 感染症 1 章感染症の総論①	人と感染症・感染症の歴史・法律、感染症の分類
18	第 3 編 感染症 1 章感染症の総論①	人と感染症・感染症の歴史・法律、感染症の分類
19	第 3 編 感染症 1 章感染症の総論②	病原微生物の種類と構造・環境の影響
20	第 3 編 感染症 1 章感染症の総論②	病原微生物の種類と構造・環境の影響
21	第 3 編 感染症 1 章感染症の総論③	感染症の予防免疫と予防接種・予防のための 3 原則
22	第 3 編 感染症 1 章感染症の総論③	感染症の予防免疫と予防接種・予防のための 3 原則

23	第 3 編感染症 2 章感染症の各論①	空気・飛沫、飲食物を介して感染する 感染症の症状、感染経路、予防対策
24	第 3 編感染症 2 章感染症の各論①	空気・飛沫、飲食物を介して感染する 感染症の症状、感染経路、予防対策
25	第 3 編感染症 2 章感染症の各論②	血液等、動物・節足動物を介して感染する 感染症の症状、感染経路、予防対策
26	第 3 編感染症 2 章感染症の各論②	血液等、動物・節足動物を介して感染する 感染症の症状、感染経路、予防対策
27	第 3 編感染症 2 章感染症の各論③	具体的な対策の例
28	まとめ	まとめを実施する。
29	解説	振り返り・解説
30	総まとめ	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容実習 I - A		
必修選択	必修	(学則表記)	美容実習 I - A		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	3	90
使用教材	ワインディング教材一式 衛生教材一式 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート			出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験第 2 課題ワインディング技術について基礎を理解し習得する		
到達目標	美容師国家試験第 2 課題ワインディング技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す		
評価基準	総まとめ 4 0 % まとめ 3 0 % 提出物 2 0 % 授業態度 1 0 %		
認定条件	・ 出席が総時間数の 5 分の 4 以上ある者 ・ 成績評価が 2 以上の者		
関連資格	美容師国家資格（実技）		
関連科目	美容技術理論Ⅰ・美容実習Ⅰ～E		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	渋谷 久美子	実務経験	○
実務内容	美容室で美容師として勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	新入生オリエンテーション	授業目的、評価基準、授業ルール説明、教材確認（道具名称・扱い方・管理方法）、机上セッティング ウィッグの取り扱い、コームワーク、縦スライス、横スライス、二重ゴム、分け取り、ブロッキング構成習得 国家試験衛生
2	ワインディング	コームワーク、縦スライス、横スライス、二重ゴム、分け取り、ブロッキング構成習得、復習、強化、ブロッキング計測 1 0 分
3	ワインディング	ブロッキング構成習得、復習、強化、ブロッキング計測 1 0 分～7 分、上巻き下巻き導入
4	ワインディング	ブロッキング構成、計測 7 分～5 分、上巻き下巻き復習、センター導入、習得

5	ワインディング	ブロッキング構成、計測 5 分、上巻き、下巻き、センター巻き、復習、強化
6	ワインディング まとめ	ブロッキングまとめを実施する 計測 5 分、コームで取るブロッキング（12ブロック）導入、計測 5 分、センター強化、計測センター 15 分、フロント導入、構成
7	ワインディング	ブロッキング（コーム、12ブロック）計測 4 分、センター強化、計測センター 12 分～10 分、フロント復習、強化、計測 1 本 1 分、両バックサイド導入
8	ワインディング	ブロッキング（コーム、12ブロック）計測 4 分、センター強化、計測センター 10 分～7 分、フロント、バックサイド復習、強化、計測 1 本 1 分～45 秒、両ネープ導入
9	ワインディング	ブロッキング（コーム、12ブロック）計測 4 分、センター計測 7 分、フロント、両バックサイド復習、強化、計測 1 本 45 秒、両ネープ復習、強化、サイド導入
10	ワインディング	ブロッキング（コーム、12ブロック）計測 4 分、センター計測 7 分、フロント、両バックサイド強化、計測 1 本 40 秒～35 秒、両ネープ、サイド復習、強化
11	ワインディング	ブロッキング（コーム、9ブロック）計測 4 分～3 分、センター計測 7 分～6 分 30 秒、フロント、両バックサイド強化、計測 35 秒～30 秒、全頭巻き計測 35 分
12	ワインディング	ブロッキング（コーム、9ブロック）計測 4 分～3 分、センター計測 6 分 30 秒、フロント、両バックサイド計測 30 秒、全頭巻き計測 35 分～30 分
13	ワインディング	ブロッキング（コーム、9ブロック）計測 3 分、センター計測 6 分 30 秒、両バックサイド計測 30 秒～27 秒、全頭巻き計測 35 分～30 分
14	ワインディング 総まとめ	ワインディング総まとめを実施する 計測ブロッキング（コーム、9ブロック）3 分全頭巻き 30 分
15	総合授業	前期振り返り

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	美容実習Ⅰ - B		
必修選択	必修	(学則表記)	美容実習Ⅰ - B		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	3	90
使用教材	シャンプー教材一式 美容技術理論Ⅰ			出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター ユアサポート
科目の基礎情報②					
授業のねらい	シャンプーイングの目的と頭皮毛髪の基本的知識を習得し、施術内容によるシャンプーイングの違いを知る				
到達目標	シャンプーイングの目的を理解しシャンプー技術のプロセスを身に付ける				
評価基準	シャンプー：総まとめ25％　まとめ15％　授業態度10％ カラーリング：総まとめ25％　まとめ15％　授業態度10％				
認定条件	・ 出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	美容技術理論Ⅰ				
備考	・ 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 ・ この科目は「シャンプーイング」「カラーリング」の2領域に大別されるため、以下「各回の展開」は、領域別に記載する。				
担当教員	山下 真菜	実務経験		○	
実務内容	美容室で美容師として勤務後、トータルビューティーサロン店長を務める				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	新入生オリエンテーション	授業目的、評価基準、授業ルール説明、教材確認（道具名称・扱い方・管理方法） シャンプー台の利用の仕方、シャンプー知識
2	シャンプーイング	ブラッシング、シャワーヘッドの使用法、シャンプープロセスの理解
3	シャンプーイング	シャンプーのプロセスの復習
4	シャンプーイング	プレシャンプー

5	シャンプーイング	シャンプー手順 1 シャンプー
6	シャンプーイング	1 シャンプー、リンス、コンディショナー、トリートメント
7	シャンプーイング	1 シャンプー、トリートメントプロセス
8	シャンプーイング まとめ	シャンプーイング まとめを実施する 1 シャンプー～トリートメントプロセス 振り返り
9	シャンプーイング	2 シャンプー、スカルプトリートメント
10	シャンプーイング	2 シャンプー、スカルプトリートメント
11	シャンプーイング	2 シャンプー、スカルプトリートメント・ヘッドスパ（プロセス）
12	シャンプーイング 総まとめ	シャンプーイング 総まとめを実施する 2 シャンプー、スカルプトリートメント 振り返り
13	シャンプーイング	ヘッドスパ（リラクゼーションマッサージ）
14	シャンプーイング	ヘッドスパ（リラクゼーションマッサージ）
15	総合授業	シャンプー技術振り返り
16	新入生オリエンテーション	授業目的、評価基準、授業ルール説明、教材確認（道具名称・扱い方・管理方法）
17	カラーリング基礎	明るさ・色味・デザインの知識
18	カラーリング基礎	暖色系カラーチャート作成
19	カラーリング基礎	寒色系カラーチャート作成
20	カラーリング基礎	タイプ別塗布技術の知識と実践
21	カラーリング基礎	ヘアカラーの種類、脱色剤、染毛メカニズム、色の基本 ヘアカラー・ヘアマニキュア塗布練習
22	カラーリング	ヘアカラー、ヘアマニキュア塗布練習
23	カラーリング	ヘアカラー、ヘアマニキュア塗布練習

24	カラーリング まとめ	ヘアカラー塗布 まとめを実施する
25	カラーリング	ニュアンスカラー技法
26	カラーリング	ウィービング技法（ペーパー使用）
27	カラーリング	スライシング技法（ホイルワーク使用）
28	応用	スタイル作成・フリーカラー
29	応用	スタイル作成・フリーカラー
30	総合授業	カラーリング技術振り返り

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	美容実習Ⅰ - C		
必修選択	必修	(学則表記)	美容実習Ⅰ - C		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	3	90
使用教材	カッティング教材一式 衛生教材一式 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート ヘアアレンジ一式、ヘアアレンジテキスト			出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター ユアサポート
科目の基礎情報②					
授業のねらい	【国家試験カット】美容師国家試験第1課題レイヤーカットの構成 基礎知識を習得する 【ヘアアレンジ】頭部の名称からヘアアレンジの基礎技術・現場での基礎技術を出来る様にする				
到達目標	【国家試験カット】国家試験第1課題レイヤーカット技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す 【ヘアアレンジ】ブラッシング・ピニングのヘアアレンジの基本テクニックを理解する。 編み込みやコテの使用等のヘアアレンジが出来る様になる。就職活動に必要なセルフテクニックを知る。				
評価基準	国家試験カット：総まとめ20％ まとめ15％ 提出物10％ 授業態度5％ ヘアアレンジ：総まとめ20％ まとめ15％ 提出物10％ 授業態度5％				
認定条件	・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格（実技）				
関連科目	【国家試験カット】美容技術理論Ⅰ・美容実習Ⅰ-D 【ヘアアレンジ】美容実習Ⅰ-A・美容実習Ⅰ-B・美容実習Ⅰ-D・美容実習Ⅰ-E				
備考	・原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 ・この科目は「国家試験カット」「ヘアアレンジ」の2領域に大別されるため、以下「各回の展開」は、領域別に記載する。				
担当教員	進藤 琢哉			実務経験	○
実務内容	美容室で美容師として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	新入生オリエンテーション	授業目的、評価基準、授業ルール説明、教材確認（道具名称・扱い方・管理方法）机上セッティング シザーの開閉、シザーワーク、コームワーク、姿勢、ボディポジション 国家試験衛生

2	国家試験カット	ブロッキング、各ブロックの名称、ブロッキングの取り方、ブロッキング計測
3	国家試験カット	ブロッキング（取り方、計測）、ヘムライン
4	国家試験カット	ブロッキング（取り方、計測）、ヘムライン、第3ブロック
5	国家試験カット	ブロッキング計測、第3ブロック、第2ブロック
6	国家試験カット まとめ	ブロッキング計測まとめを実施する、第3ブロック、第2ブロック
7	国家試験カット	第2ブロック、第1ブロック
8	国家試験カット	第1ブロック、バックのカット修正
9	国家試験カット	バックのカット修正、フェイスライン、フロント
10	国家試験カット	フェイスライン、フロント、サイド
11	国家試験カット	サイド、チェックカット、カッティング手順再確認、計測
12	国家試験カット	チェックカット、国家試験カット手順再確認、計測
13	国家試験カット	国家試験カット手順再確認、計測
14	国家試験カット 総まとめ	国家試験カット総まとめを実施する 振り返り
15	総合授業	前期振り返り
16	オリエンテーション 毛髪頭部名称、ブラッシング	授業の目的目標、評価基準、授業ルール、教材確認、 毛髪知識、頭部名称
17	ブロッキング ポニーテール	ブロッキング、ポニーテール導入
18	ポニーテール 三つ編み	ポニーテール反復練習 三つ編み導入
19	ポニーテール 編み込み・フィッシュボーン	ポニーテール反復練習 編み込み・フィッシュボーン導入
20	ポニーテールテスト スタイル作り①	ポニーテールテスト、振り返り 学んだテクニックを使いスタイルを作る

21	スタイル作り②	学んだテクニックを使いスタイルを作る、振り返り
22	ホットカーラー	ホットカーラー導入
23	ホットカーラー ピンング	ホットカーラー反復練習 ピンング導入
24	ホットカーラー／ピンング 逆毛	ホットカーラー、ピンング反復練習 逆毛導入
25	ホットカーラー／ピンング 逆毛/シニヨン導入	ホットカーラー、ピンング反復練習 逆毛、シニヨン導入
26	アイロン シニヨン	アイロン導入 シニヨンスタイル反復練習
27	アイロン シニヨンテスト	アイロン反復練習 シニヨンテスト
28	スタイル作り③	学んだテクニックを使いスタイルを作る、振り返り
29	テスト 相モデルスタイル作り	実技テスト 学んだテクニックを使い人頭でスタイルを作る
30	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容実習 I - D		
必修選択	必修	(学則表記)	美容実習 I - D		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	3	90
使用教材	オールウエーブ教材一式 カット教材一式 衛生教材一式 改正美容師技術試験課題 衛生と技術の解説 三幸学園オリジナルマニュアル 美容実習ノート			出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験第 1 課題カットの構成を理解し、国家試験規定時間内での合格基準の技術を習得する 美容師国家試験第 2 課題オールウエーブ技術について基礎を理解し習得する		
到達目標	国家試験第 1 課題レイヤーカット技術、第 2 課題オールウエーブ技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す		
評価基準	オールウエーブ：総まとめ 20%　まとめ 15%　提出物 10%　授業態度 5% 国家試験カット：総まとめ 20%　まとめ 15%　提出物 10%　授業態度 5%		
認定条件	・出席が総時間数の 5 分の 4 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者		
関連資格	美容師国家資格（実技）		
関連科目	美容技術理論Ⅰ・美容実習Ⅰ－C		
備考	・原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 ・この科目は「オールウエーブセッティング」「国家試験カット」の 2 領域に大別されるため、以下「各回の展開」は、領域別に記載する。		
担当教員	進藤　琢哉	実務経験	○
実務内容	美容室で美容師として勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	新入生オリエンテーション	この授業の目的、評価基準、マナールール説明 教材確認（教材の名称、扱い方、管理方法）、ウィッグ事前仕込み（カット）
2	オールウエーブセッティング	ウィッグ事前仕込み（カット、パーマ）
3	オールウエーブセッティング	ウィッグ事前仕込み（カット、パーマ）
4	オールウエーブセッティング	ウィッグ事前仕込み（カット、パーマ）机上セッティング、道具確認 7 段構成の展開図及び構成完成図の手順確認、ローション塗布、ウェーブ基本導入

5	オールウエーブセッティング	ローション塗布、ウエーブ基本導入、ウエーブ、リッジ復習、強化 1 段目馬蹄シェーブ、スカルプチュアカール（スライス、手順、ピンング）
6	オールウエーブセッティング	ウエーブ、リッジ復習、強化、1 段目馬蹄シェーブ、スカルプチュアカール（スライス、手順、ピンング）2 段目ウエーブ、リッジ導入
7	オールウエーブセッティング	1 段目馬蹄シェーブ、スカルプチュアカール（スライス、手順、ピンング）、計測 7 分 2 段目ウエーブ、リッジ復習、強化 3 段目導入（ウエーブ、リッジ、スカルプチュアカール）
8	オールウエーブセッティング	1 段目馬蹄シェーブ、スカルプチュアカール（スライス、手順、ピンング）、計測 7 分～5 分 2 段目ウエーブ、リッジ復習、強化、計測 7 分～5 分 3 段目ウエーブ、リッジ、スカルプチュアカール復習、強化
9	オールウエーブセッティング	1 段目馬蹄シェーブ、スカルプチュアカール（スライス、手順、ピンング）、計測 7 分～5 分 2 段目ウエーブ、リッジ復習、強化、計測 7 分～5 分 3 段目ウエーブ、リッジ、スカルプチュアカール復習、強化、計測 1 0 分～8 分
10	オールウエーブセッティング	1 段目馬蹄シェーブ、スカルプチュアカール（スライス、手順、ピンング）、計測 5 分 2 段目ウエーブ、リッジ復習、強化、計測 5 分 3 段目ウエーブ、リッジ、スカルプチュアカール復習、強化、計測 1 0 分～8 分
11	オールウエーブセッティング まとめ	オールウエーブセッティングまとめを実施する 1 段目～3 段目計測 1 8 分 右側、左側ウエーブ、リッジ、くり抜き導入
12	オールウエーブセッティング	1～3 段目構成、計測 1 8 分～1 5 分 右側、左側ウエーブ、リッジ、くり抜き復習、強化
13	オールウエーブセッティング	1～3 段目構成、計測 1 5 分 右側、左側ウエーブ、リッジ、くり抜き復習、強化、計測左右各 6 分～5 分
14	オールウエーブセッティング 総まとめ	オールウエーブセッティング総まとめを実施する 1～3 段目、右側・左側ウエーブ、リッジ、くり抜き計測 2 7 分
15	総合授業	後期振り返り
16	新入生オリエンテーション	授業目的、評価基準、授業ルール説明、教材確認（道具名称・扱い方・管理方法）、机上セッティング 前期再確認、シザーの持ち方、開閉、シザーワーク、コームワーク、姿勢、ボディポジション、 カッティング手順再確認 国家試験衛生
17	国家試験カット	カッティング手順再確認（手順、ボディポジション、チェックカット）計測 3 0 分
18	国家試験カット	カッティング手順再確認、計測（カッティングのみ）1 8 分～1 6 分 （チェックカット込み）2 2 分～2 0 分
19	国家試験カット	カッティング手順再確認（手順、ボディポジション、チェックカット）計測 2 5 分
20	国家試験カット	カッティング手順再確認（手順、ボディポジション、チェックカット）計測 2 5 分

21	国家試験カット	カッティング手順再確認（手順、ボディポジション、チェックカット）計測 2 5 分
22	国家試験カット まとめ	カッティングまとめを実施する 計測 2 5 分
23	国家試験カット	カッティング手順再確認、計測 2 5 分～2 0 分
24	国家試験カット	カッティング手順再確認、計測 2 5 分～2 0 分
25	国家試験カット	カッティング手順再確認、計測（カッティングのみ）2 0 分
26	国家試験カット	カッティング手順再確認、計測（カッティングのみ）2 0 分～1 8 分
27	国家試験カット	カッティング手順再確認、計測（カッティングのみ）1 8 分 （チェックカット込み）2 2 分～2 0 分
28	国家試験カット 総まとめ	カッティング総まとめを実施する 計測 2 0 分
29	国家試験カット	カッティング手順再確認、計測（カッティングのみ）1 8 分～1 6 分 （チェックカット込み）2 2 分～2 0 分
30	総合授業	後期振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容実習Ⅰ - E		
必修選択	必修	(学則表記)	美容実習Ⅰ - E		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	3	90
使用教材	ワインディング教材一式衛生教材一式 改正美容師実技試験課題衛生と技術の解説三幸学園オリジナル実技 マニュアル美容実習ノート ヘアアレンジ一式、ヘアアレンジテキスト			出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター ユアサポート

科目の基礎情報②

授業のねらい	【ワインディング】 美容師国家試験第2課題ワインディング技術を試験時間内に巻くことができ、国家試験レベルの技術を習得する 【ヘアアレンジ】 頭部の名称からヘアアレンジの基礎知識・現場での基礎技術を出来る様にする。				
到達目標	【ワインディング】 美容師国家試験第2課題ワインディング技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す 【ヘアアレンジ】 人にする為の技術・知識と、セルフアップの為の技術・知識と、両方の視点で基礎技術と知識を理解出来るようにする。				
評価基準	・ワインディング：総まとめ20％まとめ15％提出物10％授業態度5％ ・ヘアアレンジ：総まとめ20％まとめ15％提出物10％授業態度5％				
認定条件	・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格（実技）				
関連科目	【ワインディング】 美容実習Ⅰ-A、美容技術理論Ⅰ 【ヘアアレンジ】 美容実習Ⅰ-A、美容実習Ⅰ-B、美容実習Ⅰ-C、美容実習Ⅰ-D				
備考	・原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 ・この科目は「ワインディング」「ヘアアレンジ」の2領域に大別されるため、以下「各回の展開」は、領域別に記載する。				
担当教員	進藤 琢哉			実務経験	○
実務内容	美容室で美容師として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	新入生オリエンテーション	この授業の目的、評価基準、マナールール説明、教材確認（扱い方、管理方法） 前期復習
2	ワインディング	ブロッキング3ブロック1分、全頭巻き計測25分

3	ワインディング	ブロッキング3ブロック1分、全頭巻き計測25分
4	ワインディング	ブロッキング3ブロック1分、全頭巻き計測23分
5	ワインディング	ブロッキング3ブロック1分、全頭巻き計測23分
6	ワインディングまとめ	ブロッキング3ブロック1分、全頭巻き計測23分まとめを実施する
7	ワインディング	ブロッキング込み全頭計測22分
8	ワインディング	ブロッキング込み全頭計測22分
9	ワインディング	ブロッキング込み全頭計測20分
10	ワインディング	ブロッキング込み全頭計測20分
11	ワインディング	ブロッキング込み全頭計測20分
12	ワインディング	ブロッキング込み全頭計測20分
13	ワインディング総まとめ	ブロッキング込み全頭計測20分総まとめを実施する
14	ワインディング	ブロッキング込み全頭計測20分
15	総合授業	後期振り返り
16	シニヨン・土台作り／夜会巻き	シニヨン・土台作り／夜会巻き導入
17	シニヨン・土台作り／夜会巻き	シニヨン・土台作り／夜会巻き復習
18	夜会巻き	夜会巻き復習
19	夜会巻き	夜会巻きテスト、振り返り
20	カールアップ	カールアップ導入
21	スタイル作り④	カールアップを使ったスタイル作り

22	スタイル作り⑤	カールアップを使ったスタイル作り
23	ハーフアップ／ダウンスタイル①	トレンドを取り入れたスタイル作り
24	ハーフアップ／ダウンスタイル②	トレンドを取り入れたスタイル作り
25	スタイルチェンジ① スタイル作りテスト	アップ⇒ハーフ⇒ダウンとチェンジ出来るスタイル作り 今まで学んだ技術の作品作り
26	スタイルチェンジ② スタイル作りテスト	アップ⇒ハーフ⇒ダウンとチェンジ出来るスタイル作り 今まで学んだ技術の作品作り
27	スタイル作り⑥	テーマに合わせたスタイル作りと振り返り
28	スタイル作り⑦	テーマに合わせたスタイル作りと振り返り
29	スタイル作り⑧	テーマに合わせたスタイル作りと振り返り
30	総合授業	後期振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	美容実習 I - F		
必修選択	必修	(学則表記)	美容実習 I - F		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	2	60
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容室として現場で求められる資質や運営方法を具体的に理解する。		
到達目標	社会人としてマナーや敬語を使用することができる。 スタッフ間のスムーズな報告連絡相談を行うことができる。		
評価基準	企業側評価 6 0 % 学校側評価 4 0 %（ビジネスマナー 2 0 % ・ 各コース該当項目 2 0 %）		
認定条件	・ 出席が総時間数の 5 0 時間以上の者 ・ 成績評価が 2 以上の者		
関連資格			
関連科目	就職対策Ⅰ・ビジネスマナー		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	進藤 琢哉	実務経験	○
実務内容	美容室で美容師として勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	施設実習	施設実習
2	施設実習	施設実習
3	施設実習	施設実習
4	施設実習	施設実習
5	施設実習	施設実習
6	施設実習	施設実習

7	施設実習	施設実習
8	施設実習	施設実習
9	施設実習	施設実習
10	施設実習	施設実習
11	施設実習	施設実習
12	施設実習	施設実習
13	施設実習	施設実習
14	施設実習	施設実習
15	施設実習	施設実習

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	ビジネスマナーⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネスマナーⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	1	30
使用教材	サービス接遇検定公式テキスト 3 級		出版社	早稲田教育出版	
	サービス接遇検定実問題集 3 級				
	就職ハンドブック				
科目の基礎情報②					
授業のねらい	敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など社会人としての考え方、ルールやマナーを身につける				
到達目標	サービス接遇検定 3 級に合格する。 美容の現場で敬語の使い方ができるようになる。社会人としてのマナーを身につける。				
評価基準	テスト 50%、課題・提出物 30% 授業態度等 20%				
認定条件	・ 出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・ 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	サービス接遇検定 3 級				
関連科目	就職対策				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	菅田 美穂		実務経験	○	
実務内容	医療機関にて局長秘書として勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション ビジネスマナーとは	授業の目的・到達目標について ビジネスマナーを学ぶ意味を知る
2	サービススタッフの資質	サービス業界で求められているものについて
3	サービススタッフの資質	必要とされる要件の復習・従業要件について
4	専門知識・一般知識	サービス知識、従業知識、一般知識について
5	対人技能（敬語）①	様々な接遇用語・敬語について

6	対人技能（敬語）②	尊敬語・謙譲語・二重敬語について
7	対人技能（一般的なマナー）	動作を行う際の基本・ポイントについて
8	対人技能①	人間関係について
9	対人技能②	一般的なマナー・接客者としてのマナーについて
10	対人技能③	話し方について
11	実務技能①	問題処理について
12	実務技能②	環境整備・金品管理について
13	社交業務	社交儀礼の業務について
14	総復習	1～13 回までの総復習
15	総合授業	総まとめ

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	ビジネスマナーⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネスマナーⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	1	30
使用教材	サービス接遇検定公式テキスト 3 級		出版社	早稲田教育出版	
	サービス接遇検定実問題集 3 級				
	就職ハンドブック				
科目の基礎情報②					
授業のねらい	敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など社会人としての考え方、ルールやマナーを身につける。 美容業界の現状やニーズを把握し、SNS・WEB・フォトスキルを活用したマーケティング・集客を理解し実践できるようになる。				
到達目標	サービス接遇検定 3 級に合格する。 美容の現場で敬語の使い方ができるようになる。社会人としてのマナーを身につける。 顧客の共感や集客につながるメッセージや写真を Twitter、Instagram、LINE@などの SNS や WEB を通じて発信できるようになる。各コンテンツの基礎知識から運用ルールを把握、理解し、実践できるようにする。				
評価基準	テスト 40%、検定試験 30%、課題・提出物 20%、授業態度 10%				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	サービス接遇検定 3 級				
関連科目	就職対策/フォト＆ファッション				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	菅田 美穂		実務経験	○	
実務内容	医療機関にて局長秘書として勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	検定対策授業	復習と練習問題
2	WEB マーケティングと SNS	SNS アカウント運用、広告、HP、LP の役割、ペルソナの設定などの基礎知識の講義
3	検定対策授業	復習と練習問題

4	Instagram マーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
5	検定対策授業	復習と練習問題
6	Twitter マーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
7	検定対策授業	復習と練習問題
8	公式 LINE アカウントマーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
9	検定対策授業	復習と練習問題
10	Youtube マーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
11	検定対策授業	復習・検定問題の解答・解説
12	Facebook/Tiktok などの各種 SNS について	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
13	履歴書作成①	履歴書とは、履歴書のマナー、履歴書の書き方について
14	炎上防止と炎上があった際の対策	ケーススタディ
15	履歴書作成②	履歴書作成
16	画像撮影、加工の基礎	講義+実践
17	社交文書 ①	縦書き・横書きレイアウトについて 文書の種類・文書の構成・頭語と結語・時候の挨拶・前文、末文の慣用句
18	写真の撮影について	基礎的な技法の講義と実践
19	社交文書 ②	郵便の基礎知識～宛名の書き方、返信はがき、お礼状、送付状について
20	動画の撮影について	基礎的な技法の講義と実践
21	理想の美容従事者像	お客様から愛され・親しまれる美容従事者について
22	ライティングの基礎	講義+実践(9 回目、11 回目で撮影した写真・動画を使って SNS の更新を行う)

23	実技演習①「受付～誘導」	受付から誘導のロールプレイング演習
24	ランディングページ(LP)を作ってみよう	SNS で人気のある LP の紹介と簡易 LP 構築ツールを使用した LP の作成
25	実技演習②「面接練習」 実技演習③「電話対応」 実技演習④「お茶出し」	面接試験の種類とチェックポイントについて 面接ロールプレイング
26	WEB・SNS 広告の概要と基本思想	講義(リスティング、SNS、GDN、YDN)それぞれの効果的な活用方法と特徴
27	実技演習②「面接練習」 実技演習③「電話対応」 実技演習④「お茶出し」	電話のかけ方・受け方、伝言メモ、予約電話のシミュレーション
28	WEB・SNS 広告、SNS アカウントの分析方法	WEB・SNS 広告、SNS アカウントの分析方法を学ぶ
29	総合授業	総まとめ
30	総合授業	総まとめ

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	カラー＆ファッションⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	カラー＆ファッションⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	1	30
使用教材	新配色カード パーソナルカラーコーディネート検定テキスト パーソナルカラーコーディネート検定課題集		出版社	日本色研事業(株) クリエスクール	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	色に関する知識、法則、技法を理解する。				
到達目標	パーソナルカラーコーディネート検定に合格する。 美容の現場で色に関して適切な提案ができるようになる。				
評価基準	テスト 50%、提出物 30% 授業態度等 20%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	パーソナルカラーコーディネート検定				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	笹谷 幸恵		実務経験	○	
実務内容	カラーリストとしてフリーで活動。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	パーソナルカラーとは、色の連想	授業の目的・到達目標について パーソナルカラーを学ぶ意味を知る
2	色の心理的効果	色の持つイメージと性質、色の心理的効果について
3	色と光について①	色の見える仕組み、光について
4	色と光について②	眼（視覚）のしくみについて
5	色の特徴について①	無彩色と有彩色、三属性について、色相環の作成

6	色の特徴について②	三属性について、色相環・トーン図の作成
7	色の特徴について③	トーンについて
8	配色（色相、トーン）	配色、色相、トーンについて
9	配色（配色の応用、イメージ配色 他）	配色の応用編について 条件にあった配色をつくる
10	対比と同化	対比と同化について
11	混色・慣用色名	混色の原理・慣用色名について
12	パーソナルカラーの基礎①	パーソナルカラーの基礎について
13	パーソナルカラーの基礎② 復習	各シーズンの特徴について、復習
14	総復習	1～13回までの総復習
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	カラー＆ファッションⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	カラー＆ファッションⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	1	30
使用教材	新配色カード パーソナルカラーコーディネート検定テキスト パーソナルカラーコーディネート検定課題集			出版社	日本色研事業(株) クリエスクール

科目の基礎情報②

授業のねらい	色に関する知識、法則、技法を理解する。		
到達目標	パーソナルカラーコーディネート検定に合格する。 美容の現場で色に関して適切な提案ができるようになる。		
評価基準	テスト 30%、検定試験 30%、提出物 20%、授業態度 20%		
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者		
関連資格	パーソナルカラーコーディネート検定		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	笹谷 幸恵	実務経験	○
実務内容	カラーリストとしてフリーで活動。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	アドバイス実践 (ファッション)	ファッションについて
2	アドバイス実践 (ヘアカラー・メイク)	ヘアカラー、メイクについて
3	アドバイス実践 (ネイル・ブライダル)	ネイル、ブライダルについて
4	総復習	検定試験に向けての総復習
5	総復習	復習と練習問題

6	検定対策授業	復習と練習問題
7	検定対策授業	復習と練習問題
8	検定対策授業	復習と練習問題
9	検定対策授業	復習と練習問題
10	検定対策授業	復習と練習問題
11	パーソナルカラーの判定①	パーソナルカラーの判定に必要な知識について
12	パーソナルカラーの判定②	パーソナルカラーの判定に必要な知識・実践について
13	4つのグループの具体化①	パーソナルカラー4つのグループの特徴を理解し、グループを明確にする
14	4つのグループの具体化②	パーソナルカラー4つのグループの特徴を理解し、グループを明確にする
15	総合授業	総まとめ

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ヘアアレンジ		
必修選択	選択	(学則表記)	ヘアアレンジ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	1	30
使用教材	ヘアアレンジー式、ヘアアレンジテキスト		出版社	ユアサポート	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	頭部の名称からヘアアレンジの基礎知識・現場での基礎技術を出来る様にする。				
到達目標	ブラッシング・ピンニングのヘアアレンジの基本テクニックを理解する。 編み込みやコテの使用等のヘアアレンジが出来る様になる。 就職活動に必要なセルフテクニックを知る。				
評価基準	テスト 50%、提出物 30% 授業意欲 20%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	・原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	米田 理奈		実務経験	○	
実務内容	ブライダルメイク、撮影メイク等のヘアメイク全般				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション 毛髪頭部名称、ブラッシング	授業の目的目標、評価基準、授業ルール、教材確認、 毛髪知識、頭部名称
2	ブロッキング ポニーテール	ブロッキング、ポニーテール導入
3	ポニーテール 三つ編み	ポニーテール反復練習 三つ編み導入
4	ポニーテール 編み込み・フィッシュボーン	ポニーテール反復練習 編み込み・フィッシュボーン導入
5	ポニーテール スタイル作り①	ポニーテールテスト、振り返り 学んだテクニックを使いスタイルを作る

6	スタイル作り②	学んだテクニックを使いスタイルを作る、振り返り
7	ホットカーラー	ホットカーラー導入
8	ホットカーラー ピニング	ホットカーラー反復練習 ピニング導入
9	ホットカーラー／ピニング／逆毛	ホットカーラー、ピニング反復練習 逆毛導入
10	ホットカーラー／ピニング／逆毛	ホットカーラー、ピニング、逆毛反復練習
11	ブロー・アイロン	ブロー、アイロン導入(道具の種類と使い方)
12	ブロー・アイロン	ブロー、アイロン反復練習
13	ブロー・アイロン	ブロー、アイロン反復練習
14	テスト	学んだテクニックを使いスタイルを作るテスト、振り返り
15	総合授業	まとめを行う
16	シニヨン・土台作り／夜会巻き	シニヨン・土台作り／夜会巻き導入
17	シニヨン・土台作り／夜会巻き	シニヨン・土台作り／夜会巻き復習
18	夜会巻き	夜会巻き復習
19	夜会巻き	夜会巻きテスト、振り返り
20	カールアップ	カールアップ導入
21	スタイル作り④	カールアップを使ったスタイル作り
22	スタイル作り⑤	カールアップを使ったスタイル作り
23	ハーフアップ／ダウンスタイル①	トレンドを取り入れたスタイル作り
24	ハーフアップ／ダウンスタイル②	トレンドを取り入れたスタイル作り

25	スタイルチェンジ①	アップ➡ハーフ➡ダウンとチェンジ出来るスタイル作り
26	スタイルチェンジ②	アップ➡ハーフ➡ダウンとチェンジ出来るスタイル作り
27	スタイル作り⑥	テーマに合わせたスタイル作りと振り返り
28	スタイル作り⑦	テーマに合わせたスタイル作りと振り返り
29	スタイル作り⑧	テーマに合わせたスタイル作りと振り返り
30	総合授業	まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラム		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラム		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	1	30
使用教材	7つの習慣」テキスト、夢のスケッチブック		出版社	ユアサポート	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」を体現する為の授業として、7つの習慣を体系的に学ぶことで、社会人／職業人としてあるべき人格を高め、主体性を発揮して物事にチャレンジできる人材に成長する				
到達目標	・「自立」と「相互依存」のためにはどんな考え方や行動習慣が必要なのかを理解する ・他者へのリーダーシップを醸成し、主体性を発揮できる様になる				
評価基準	小テスト／レポート：20％ 授業態度：40％ 提出物：40％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	キャリア支援／就職対策等				
備考	・原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	藤田 奈々香		実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	未来デザインプログラム授業への価値付けを行い、日誌を書くことの意味や今日から実行できる機会を考える
2	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの概念を知り、自分制限パラダイムを取り払った状態で行動が継続できる様に考える
3	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解すると共に、自分自身への約束を守る大切さを学ぶ
4	刺激と反応	刺激と反応の考え方を理解し、どのような状況でも一時停止ボタンを使い主体的に判断・行動していくことの大切さを考える
5	言霊 ～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
6	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にし、今自分がやるべき事、考えるべき事を優先順位を考えながら整理していく大切さを学ぶ

7	選んだ道と選ばなかった道	自分の選択は自分の気持ち次第であり、自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ
8	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
9	人生のビジョン	10年後のなりたい自分を考えることにより、入学時に考えた「卒業時の姿」をより具体的に考える
10	自分の価値観を知る	なりたい姿を鮮明にすることの大切さを知り、自分の価値観を深掘りすることで、将来のなりたい姿を具体的にイメージできるプロセスを学ぶ
11	大切なこととは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」は、夢の実現や目標達成に直接関係することだけではなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ。自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第2領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的成功の振り返り	主に私的成功の習慣（前期授業内容）の復習（知識確認）
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ
16	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
17	Win-Win を考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
18	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
19	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、理解してから理解するという考え方があるということを学ぶ
20	相乗効果を発揮する	多様性や人と違いがあることに価値があることを学ぶ
21	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
22	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続あり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ
23	人生ビジョンを見直そう	自らが立てたライフプランを現実的な視点から見つめ、必要な軌道修正を考える
24	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高めていく
25	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする

26	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
27	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的成功が公的成功に先立つことを理解する
28	未来デザインプログラムの振り返り	7つの習慣など、未来デザインプログラム授業で学んだことの復習（知識確認）
29	2年生に向けて①	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える
30	2年生に向けて②	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	1	30
使用教材	美容学生のための就活教科書			出版社	株式会社 ADE CREATES
科目の基礎情報②					
授業のねらい	就職対策を通して、業界の動向を知るとともに、社会人としての一般常識などを身に付ける				
到達目標	就職活動に向けて準備・行動ができている状態				
評価基準	テスト：30％ 提出物・課題：40％ 授業態度：30％				
認定条件	出席が総時間数 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 2 以上のもの				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	進藤 琢哉			実務経験	○
実務内容	札幌市内にある美容室で美容師として 5 年勤務（スタイリスト歴 2 年）				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	人間力	これからの流れについて 継続力の大切さについて
2	夢	メイクの仕事について
3	人間力	人間関係の考え方について
4	夢	ネイルの仕事について
5	人間力	チャレンジすることの大切さについて 挨拶の大切さについて
6	夢	エステの仕事について

7	人間力	漢字から読みとる心の授業
8	夢	ブライダルの仕事について
9	人間力	継続力が成果を生む・メティスについて
10	夢	ヘアアレンジ（美容師）の仕事について
11	人間力	感謝の心について
12	夢	若手実業家について
13	人間力	チームワークについて
14	夢	礼儀について
15	人間力	総まとめ
16	人間力	オリエンテーション
17	人間力	担任の想い
18	人間力	集団で良いチームを作る❶
19	人間力	集団で良いチームを作る❷
20	夢	卒業生講話
21	人間力	感謝について
22	夢	卒業生講話
23	夢	卒業生講話
24	人間力	感謝について
25	夢	専門コースについて

26	夢	専門コースについて
27	夢	専門コースについて
28	人間力	2 年次の自分を想像する
29	夢	春休みの就職活動について
30	夢	春休みの就職活動について

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	美容実践 I - A		
必修選択	選択	(学則表記)	美容実践 I - A		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	3	90
使用教材	【カット・パーマ・カラー】 ウィッグ、カット教材一式、カラー教材一式、ドライヤー、ブラシ類、スタイリング剤 【ベーシックメイク】 メイク道具一式、メイクアップテキストベシック（デジタルテキスト）			出版社	【カット・パーマ・カラー】 公益財団法人理容師美容師試験研修センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	【カット・パーマ・カラー】サロンワークに必要なカットスタイルの基礎を理解し、スタイルに合わせたブローやスタイリングを学ぶ。カラーリングの基礎を理解し、実践的に学ぶ。 【ベーシックメイク】スキンケアからフルメイクまでのメイクの技術を習得し現場を意識して実践できるようになる。		
到達目標	【カット・パーマ・カラー】実践に結び付く技術 カッティング・ブロースタイリング・アイロン・カラーリングの習得。 学んだ技術により、ひとつのスタイルを作成する。 【ベーシックメイク】スキンケアからフルメイクまでの技術と理論を理解する。 人にメイクが出来るようになる。		
評価基準	・【カット・パーマ・カラー】(テスト 30% 小テスト 20% 提出物 20% 授業態度 30%) ・【ベーシックメイク】(テスト 50%、提出物 30% 授業意欲 20%)		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格			
関連科目	美容実践Ⅱ 美容技術理論Ⅰ		
備考	・原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 ・この科目は「カット・パーマ・カラー」「ベーシックメイク」の2領域に大別されるため、以下「各回の展開」は、領域別に記載する。		
担当教員	澁谷 亮	実務経験	○
実務内容	美容室で美容師として勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	新入生オリエンテーション	この授業の目的・評価基準・マナールール説明 教材確認（教材の名称・扱い方・管理方法）
2	カッティング基礎 ブロー	ワンレングスカット ハンドブロー、ハーフラウンドブラシブロー

3	カッティング基礎	グラデーションカット
4	カッティング基礎 ブロー	グラデーションカット ハンドブロー、ハーフラウンドブラシブロー（ロールブラシ）
5	カッティング基礎 ブロー	グラデーションカット ハーフラウンドブラシブロー（ロールブラシ）、グラデーションスタイルブロー スタイリング（アイロン）
6	カッティング基礎	レイヤーカット
7	カッティング基礎 ブロー	レイヤーカット ハーフラウンドブラシブロー（ロールブラシ）、レイヤースタイルブロー
8	カッティング基礎 ブロー	レイヤーカット ハーフラウンドブラシブロー（ロールブラシ）、レイヤースタイルブロー スタイリング（アイロン）
9	ブロー テスト	スタイルブロー まとめを実施する
10	カラーリング基礎	ヘアカラーの種類、脱色剤、染毛メカニズム、色の基本 ヘアカラー・ヘアブリーチ・ヘアマニキュア塗布練習
11	カラーリング	ヘアカラー、ヘアマニキュア塗布練習
12	カラーリング テスト	ヘアカラー塗布 総まとめを実施する
13	アイロンセット	アイロンワーク
14	応用	スタイル作成・フリーカット
15	総合授業	前期振り返り
16	オリエンテーション	授業の目的目標、評価基準、授業ルール 教材確認(名称、使い方、管理(セッティング)方法)
17	スキンケア	スキンケア(手順)、反復練習
18	スキンケア/ベースメイク	スキンケア復習、 ベースメイク(手順)
19	スキンケア/ベースメイク	スキンケアテスト 10 分 ファンデーション(手順の復習、質感・多色塗)
20	ベースメイク	ベースメイク(手順の復習とタイムアップ)、ベースメイクの振り返り

21	ベースメイク/ポイントメイク	ベースメイク(手順の復習とタイムアップ) ポイントメイク(アイシャドウ)
22	セルフメイク	セルフメイク
23	ポイントメイク	ポイントメイク(アイメイク、アイブロウ)
24	ポイントメイク	ポイントメイク(アイメイク、アイブロウ)
25	ポイントメイク	ポイントメイク(リップ、チーク、ハイ＆ローライト)
26	フルメイク	ベースメイクから、全てのポイントメイクを行う
27	フルメイク	フルメイクテスト 35 分×2、ベーシックテクニックの振り返り
28	ソフト	フルメイク(ソフト)
29	シャープ	フルメイク(シャープ)
30	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	美容実践 I - B		
必修選択	選択	(学則表記)	美容実践 I - B		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	3	90
使用教材	メイク道具一式、メイクアップテキストベーシック（デジタルテキスト） エアブラシ道具・ボディージュエリー道具、その他特殊用品等		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	【特殊・アーティスト・モデルメイク】ボディアート、傷メイクなど特化したシーンで活用できる特殊メイク技術を学び実践できるようにする 【ベーシックメイク】スキンケアからフルメイクまでのメイクの技術を習得し現場を意識して実践できるようになる。		
到達目標	【特殊・アーティスト・モデルメイク】特殊メイクを通じて、メイクの知識を深める メイクの応用力を身に付け技術の幅を広げる 【ベーシックメイク】スキンケアからフルメイクまでの技術と理論を理解する。 人にメイクが出来るようになる。		
評価基準	・【特殊・アーティスト・モデルメイク】(テスト 30%、提出物 10% 授業意欲 10%) ・【ベーシックメイク】(テスト 30%、提出物 10% 授業意欲 10%)		
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者		
関連資格			
関連科目	美容実践Ⅱ－B		
備考	・原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 ・(ベーシックメイク) + (特殊・アーティスト・モデルメイク)		
担当教員	佐野 美樹・富田 佳代	実務経験	○
実務内容	佐野 美樹：美容部員、ハリウッドメイクスクール、メイク事務所設立 富田 佳代：ヘアメイク事務所にて勤務。ブライダルヘアメイク、スチール撮影、ドレスショー、ムービー撮影等ヘアメイク全般		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ボディアート①	授業の目的目標、評価基準、授業ルール、教材確認(名称、使い方、管理(セッティング)方法) ボディアート等の実践
2	ボディアート②	ボディアート等の実践

3	傷メイク①	様々な傷(あざ・火傷含む)のメイクの導入
4	傷メイク①	様々な傷(あざ・火傷含む)のメイクの実践
5	老人メイク①	老婆のメイクを実践する
6	老人メイク①	老父のメイクを実践する
7	舞台メイク②	舞台の女役メイクを実践する
8	舞台メイク②	舞台の男役メイクを実践する
9	アニマルメイク①	テーマに基づいたメイクの導入・実践
10	アニマルメイク①	デッサンシートの作成 デッサンシートの基づいたメイクの実践
11	作品制作①	テーマに合わせたメイクを実践する
12	作品制作①	テーマに合わせたメイクを実践する
13	作品制作①	テーマに合わせたメイクを実践する
14	作品制作①	テーマに合わせたメイクを実践する テスト、振り返り
15	総合授業	まとめを行う
16	オリエンテーション	授業の目的目標、評価基準、授業ルール 教材確認(名称、使い方、管理(セッティング)方法)
17	スキンケア	スキンケア(手順)、反復練習
18	スキンケア/ベースメイク	スキンケア復習、 ベースメイク(手順)
19	スキンケア/ベースメイク	スキンケアテスト 10 分 ファンデーション(手順の復習、質感・多色塗)
20	ベースメイク	ベースメイク(手順の復習とタイムアップ)、ベースメイクの振り返り
21	ベースメイク/ポイントメイク	ベースメイク(手順の復習とタイムアップ) ポイントメイク(アイシャドウ)

22	セルフメイク	セルフメイク
23	ポイントメイク	ポイントメイク(アイメイク、アイブロウ)
24	ポイントメイク	ポイントメイク(アイメイク、アイブロウ)
25	ポイントメイク	ポイントメイク(リップ、チーク、ハイ＆ローライト)
26	フルメイク	ベースメイクから、全てのポイントメイクを行う
27	フルメイク	フルメイクテスト 35 分×2、ベーシックテクニックの振り返り
28	ソフト	フルメイク(ソフト)
29	シャープ	フルメイク(シャープ)
30	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	美容実践 I - C		
必修選択	選択	(学則表記)	美容実践 I - C		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	3	90
使用教材	【花嫁着付け】教本・花嫁テキスト・ゆかた本・お太鼓枕・帯板・伊達締め・新伊達締め・腰ひも（モスリン（4 点）仮ひも（1））長襦袢（半えり付）・和装スリッパ（下着）・クリップ（5 点セット）足袋 【ベーシックメイク】メイク道具一式、メイクアップテキストベーシック（デジタルテキスト）			出版社	【花嫁着付け】桜花出版 KW

科目の基礎情報②

授業のねらい	【花嫁着付け】着付に関する知識・技術を身につける。 【ベーシックメイク】スキンケアからフルメイクまでのメイクの技術を習得し現場を意識して実践できるようになる。				
到達目標	【花嫁着付け】着付に関する技術の習得や付随する知識を蓄えることにより、今後の接客へ役立てることが出来る。 技術の習得目安として、・着付け 3 級（1 2 月強制受験 免許免除）を取得することが出来る。 【ベーシックメイク】スキンケアからフルメイクまでの技術と理論を理解する。 人にメイクが出来るようになる。				
評価基準	・【花嫁着付け】（検定試験：20％ テスト：15％ 授業態度：15％ ・【ベーシックメイク】（テスト 30％、提出物 10％ 授業意欲 10％）				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	一般財団法人京都きもの伝承文化協会 きもの着付け資格				
関連科目	美容実践 II - C				
備考	・原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 ・（ベーシックメイク）＋（花嫁着付け）				
担当教員	佐野 美樹・富田 佳代・齋藤 元子			実務経験	○
実務内容	佐野 美樹：美容部員、ハリウッドメイックスクール、メイク事務所設立 富田 佳代：ヘアメイク事務所にて勤務。ブライダルヘアメイク、スチール撮影、ドレスショー、ムービー撮影等ヘアメイク全般 齋藤 元子：結婚式着付、着付講師、成人・卒業式着付、着付ショー出演				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、授業ルールについて、到達目標について、教材小物の説明・記名、考査票の記入、足袋サイズの確認
2	小紋の着せ方 1	補整、長襦袢の着せ方、たたみ方を学び実践する
3	小紋の着せ方 2	小紋の着付（裾線、衿合せ）、たたみ方を学び実践する
4	小紋の着せ方 3	小紋の着付（お端折の作り方）を学び実践する
5	小紋の着せ方 4	半幅帯（蝶結び）の結び方を学び実践する 小テスト（着物の名称）を実施する
6	小紋の着せ方 5	小紋の着付を仕上げる（検定対策）
7	小紋の着せ方 6	小紋の着付を仕上げる（検定対策）
8	小紋の着せ方 7	小紋の着付を仕上げる（検定対策）
9	検定向上会	総仕上げ、検定試験の流れについて
10	検定試験	着付け 3 級検定（小紋の着付と蝶結び（20 分））を実施する たたみ方テストを実施する
11	座学	着物の名称と用語（プリント①②）について 試験結果を通知する
12	小紋と名古屋帯	お太鼓結びでの普段着（小紋）着付を学び実践する
13	振袖の着せ方 1	振袖の着付、補整の仕方（胸元・肩・ウエスト）、たたみ方を学び実践する
14	振袖の着せ方 2	袋帯について、結び方を学び実践する
15	総合学習	総まとめを行う
16	オリエンテーション	授業の目的目標、評価基準、授業ルール 教材確認(名称、使い方、管理(セッティング)方法)
17	スキンケア	スキンケア(手順)、反復練習
18	スキンケア/ベースメイク	スキンケア復習、 ベースメイク(手順)

19	スキンケア/ベースメイク	スキンケアテスト 10 分 ファンデーション(手順の復習、質感・多色塗)
20	ベースメイク	ベースメイク(手順の復習とタイムアップ)、ベースメイクの振り返り
21	ベースメイク/ポイントメイク	ベースメイク(手順の復習とタイムアップ) ポイントメイク(アイシャドウ)
22	セルフメイク	セルフメイク
23	ポイントメイク	ポイントメイク(アイメイク、アイブロウ)
24	ポイントメイク	ポイントメイク(アイメイク、アイブロウ)
25	ポイントメイク	ポイントメイク(リップ、チーク、ハイ＆ローライト)
26	フルメイク	ベースメイクから、全てのポイントメイクを行う
27	フルメイク	フルメイクテスト 35 分×2、ベーシックテクニックの振り返り
28	ソフト	フルメイク(ソフト)
29	シャープ	フルメイク(シャープ)
30	総合授業	まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	美容実践Ⅰ - D		
必修選択	選択	(学則表記)	美容実践Ⅰ - D		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	3	90
使用教材	JNA テクニカルシステム ベーシック・ジェル ネイル用具一式		出版社	NPO 法人日本ネイリスト協会	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	ネイルについて歴史などの背景から始まり各部名称や病気・消毒法などを理解し、 基礎的なマニキュア技術を実践できる				
到達目標	ネイルの基礎知識及び技術を理解し実践でき、JNEC 3 級レベルを習得				
評価基準	小テスト 30％・授業態度他 10％・筆記テスト 30％・実技テスト 30％				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	JNEC ネイリスト検定 3 級／JNA ジェルネイル検定初級				
関連科目	サロンワークⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	佐藤 千波		実務経験	○	
実務内容	ネイルサロン経営				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	導入・教材配布・テーブルセッティング	教材確認及び名称・用途説明 検定を意識したテーブルセッティングを学ぶ
2	導入 ネイル概論 (P16~19)	5 パターンのファイリング方法を学ぶ 美容理論での爪の構造と働きの違いを学ぶ。
3	ネイル概論 (P8~15) ポリッシュカラーリング 実技	歴史や技術体系を学ぶ ポリッシュの塗り方を学ぶ
4	小テスト ファイリング・バッフィング	相モデルでのファイリング練習と、バッフィングを学ぶ
5	小テスト ネイル概論 (P20~29) カラーリング (相モデル)	相モデルでポリッシュの塗り方を学ぶ

6	ネイル概論 (P30~36) キューティクルケア	ケアの方法を学ぶ
7	ジェルネイル概論 第一課題 相モデル	ジェルに関しての知識を取得する ジェル検定に向けて第一課題を通して練習する
8	小テスト キューティクルケア	小テストを行う
9	小テスト 第一課題 相モデル	ジェル検定に向けて第一課題を通して練習する
10	ネイル概論 (P38~45) ファイル〜ケア	ファイリング〜ケアまで通して練習する
11	ジェルカラーリング 実技 オフ 実技	ジェルでのカラーリング方法と、ジェルのオフの方法を学ぶ
12	小テスト 片手ケア〜カラーリング〜オフ	ジェル検定初級とは違った、両手のカラーリングを学ぶ
13	ジェルアート (ピーコック) 赤ジェル〜ピーコック 実技	初級の検定内容になっているジェルアートの技法を学び、練習する
14	ネイル概論 (P46~65) ペイントアート	アクリル絵の具を使ったネイルアートを学ぶ
15	第二課題 実技	第二課題をマスターする
16	小テスト カラーリング〜ペイントアート 実技	ペイントアートを相モデルで練習
17	第二課題 実技	第二課題をマスターする
18	ケア〜カラー 実技	ケアを中心に復習する
19	筆記試験 検定説明・初級 DVD	筆記試験
20	3 級内容 実技	実技試験練習
21	ジェル検定初級 通し	第一課題から第二課題まで全てを通して練習をする
22	3 級内容 実技	実技試験練習
23	ジェル検定初級 通し	第一課題から第二課題まで全てを通して練習をする

24	実技テスト 3 級内容 筆記テスト 練習	事前審査 5 分 実技試験 7 0 分 チェック 1 0 分
25	実技試験 ジェル検定初級内容	事前審査 5 分 第一課題 35 分 第二課題 60 分
26	実技テスト 3 級内容 筆記テスト 本番	事前審査 5 分 実技試験 7 0 分 チェック 1 0 分
27	実技試験 ジェル検定初級内容	事前審査 5 分 第一課題 35 分 第二課題 60 分
28	3 級 通し	事前審査 5 分 実技試験 7 0 分 チェック 1 0 分
29	総合授業	総まとめを行う
30	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	美容実践 I - E		
必修選択	選択	(学則表記)	美容実践 I - E		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容科	3	90
使用教材	【ネイル検定対策】 JNA テクニカルシステム ベーシック、ネイル用具一式 【ベーシックメイク】 メイク道具一式、メイクアップテキストベーシック（デジタルテキスト）			出版社	NPO 法人日本ネイリスト協会

科目の基礎情報②

授業のねらい	【ネイル検定対策】 ネイルについて歴史などの背景から始まり各部名称や病気・消毒法などを理解し、基礎的なマニキュア技術を実践できる 【ベーシックメイク】 スキンケアからフルメイクまでのメイクの技術を習得し現場を意識して実践できるようになる。				
到達目標	【ネイル検定対策】 ネイルの基礎知識及び技術を理解し実践でき、J N E C 3 級レベルを習得 【ベーシックメイク】 スキンケアからフルメイクまでの技術と理論を理解する。 人にメイクが出来るようになる。				
評価基準	・ 【ネイル検定対策】 (検定結果 15%・授業態度他 5%・筆記テスト 15%・実技テスト 15%) ・ 【ベーシックメイク】 (テスト 30%、提出物 10% 授業意欲 10%)				
認定条件	・ 出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・ 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	JNA ジェルネイル検定初級				
関連科目	美容実践 II - E				
備考	・ 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 ・ (ベーシックメイク) + (ネイル検定対策)				
担当教員	佐藤 千波 ・ 富田 佳代			実務経験	○
実務内容	佐藤 千波：ネイルサロン経営 富田 佳代：ヘアメイク事務所にて勤務。ブライダルヘアメイク、スチール撮影、ドレスショー、ムービー撮影等ヘアメイク全般				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	導入・教材配布・ テーブルセッティング ネイル概論（マニキュアの歴史）	教材確認及び名称・用途説明 検定を意識したテーブルセッティング・ケアカラーとは何かを学ぶ

2	爪の構造 ファイリング実技 (トレーニングハンド)	爪の各部名称を覚える エメリーボードの持ち方、 支え方、角度、動かし方など様々なカットスタイルをマスターする
3	ケアデモ ケア実技	手順と用具の使用法を学ぶ ウッドスティック削り・コットンの巻き方
4	消毒法 ファイリング・バッフィ ング実技 (ハンド・相モデル)	ネイル技術における消毒法などを学ぶ
5	ケア実技(相モデル)	ケア手順をマスターする
6	カラーリング・オフ デモ シート実技	カラーリングをマスターする
7	カラーリング 相モデル実技	同上
8	ケア～カラーリング～ ポリッシュリムーブ実技	ケア・カラー手順をマスターする
9	フラットアート講義・デモ 実技(アクリル絵の具)	3級検定用アートなどの 基本のアートを学ぶ チップにラウンド・カラー・アートの宿題
10	爪の病気とトラブル・カウンセリ ング 検定説明	爪のトラブルを覚え、カウンセリングの必要性を学ぶ J NEC 3級検定受験についての説明
11	ケア・カラー・アート実技	検定技術をマスターする ※3級検定受験者には チップにラウンド・カラー・アートの宿題
12	ケア・カラー・アート実技	同上
13	筆記試験 ケア・カラー実技	筆記試験 J NEC 3級検定受験内容に準じる
14	実技試験	実技試験 J NEC 3級検定受験内容に準じる
15	総合授業	総まとめを行う
16	オリエンテーション	授業の目的目標、評価基準、授業ルール 教材確認(名称、使い方、管理(セッティング)方法)
17	スキンケア	スキンケア(手順)、反復練習
18	スキンケア/ベースメイク	スキンケア復習、 ベースメイク(手順)

19	スキンケア/ベースメイク	スキンケアテスト 10 分 ファンデーション(手順の復習、質感・多色塗)
20	ベースメイク	ベースメイク(手順の復習とタイムアップ)、ベースメイクの振り返り
21	ベースメイク/ポイントメイク	ベースメイク(手順の復習とタイムアップ) ポイントメイク(アイシャドウ)
22	セルフメイク	セルフメイク
23	ポイントメイク	ポイントメイク(アイメイク、アイブロウ)
24	ポイントメイク	ポイントメイク(アイメイク、アイブロウ)
25	ポイントメイク	ポイントメイク(リップ、チーク、ハイ＆ローライト)
26	フルメイク	ベースメイクから、全てのポイントメイクを行う
27	フルメイク	フルメイクテスト 35 分×2、ベーシックテクニックの振り返り
28	ソフト	フルメイク(ソフト)
29	シャープ	フルメイク(シャープ)
30	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	美容実習Ⅰ-F		
必修選択	必修	(学則表記)	美容実習Ⅰ-F		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科	2	60
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容室として現場で求められる資質や運営方法を具体的に理解する。		
到達目標	社会人としてマナーや敬語を使用することができる。 スタッフ間のスムーズな報告連絡相談を行うことができる。		
評価基準	企業側評価60％ 学校側評価40％(ビジネスマナー20％・各コース該当項目20％)		
認定条件	・出席が総時間数の50時間以上の者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格			
関連科目	就職対策Ⅰ・ビジネスマナー		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	進藤 琢哉	実務経験	○
実務内容	美容室で美容師として勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	施設実習	施設実習
2	施設実習	施設実習
3	施設実習	施設実習
4	施設実習	施設実習
5	施設実習	施設実習
6	施設実習	施設実習
7	施設実習	施設実習

8	施設実習	施設実習
9	施設実習	施設実習
10	施設実習	施設実習
11	施設実習	施設実習
12	施設実習	施設実習
13	施設実習	施設実習
14	施設実習	施設実習
15	施設実習	施設実習